

# 松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター 〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉  
E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>  
松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」  
〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

## 日々の積み重ねを大切に！

毎日暑い日が続きます。夏季休業が始まりましたが、小学校においてはキャンプや地区水泳等、中学校においてはクラブ活動の大会等に向けて、それぞれ多忙な日々をお過ごしのことと存じます。

さて、サッカーワールドカップ・ロシア大会が幕を閉じました。激戦をつづけたサッカー日本代表は、決勝トーナメント1回戦ベルギー戦で、2点先取するも3点を許し、残念ながら敗退という結果に終わりました。日本にとっては初めてのベスト8がかかった歴史的な勝利を逃しましたが、日本代表の選手たちは、多くの人に感動と希望を与えてくれました。ベルギー戦の後、多くの選手が「もう少しこのチームで戦いたかった。」「チームのみんなやサポーターに感謝の気持ちでいっぱいです。」と、インタビューに答えていました。「チームのために、今自分ができること」を選手たちは考え、支え合いながら試合を重ね、個人としてもチームとしても成長していく姿を見せてもらった気がします。

また、日本代表の選手たちは、試合後のロッカールームにおいても去り際の礼儀を見せ関係者に感銘を与えました。欧州サッカー連盟役員が、日本代表チームが使用した後のロッカールームを撮影し、SNSで次のようにコメントされていたようです。

「ベルギーと94分間を戦い、敗れたあとの日本代表ロッカールームです。選手たちはスタジアムではファンに感謝を示し、ベンチやロッカールームをすべて片づけたあと取材対応をしました。残されたのはロシア語で『ありがとう』と書いたメモだけでした。まさにすべてのチームのお手本ではないでしょうか。一緒に仕事ができる光栄です。」

日本代表チームの心遣いを感じる出来事でした。

選手だけでなく、日本人のサポーターたちが試合後にスタジアムのゴミ拾いを自主的に行っている姿もよく報じられていますが、他の国のサポーターにも広がりを見せていたようです。

日本代表の選手やサポーターがとった行動は素晴らしいことですが、よく考えてみると「教育」の影響も大きいのではないのでしょうか。「使ったものをきちんと片づけること」「使う前よりも美しく」といったマナーや「思いやりの心」「感謝の気持ち」をもつことは、基本的なこととして学校において日々教育していることです。日々の積み重ねを意識しながら、教育活動を行っていくことの大切さを改めて感じる出来事でした。

## 夏こそ研修講座で自分磨きを！

平成30年3月に、三重県教育委員会から「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」出されました。その中においては、「子どもたちの成長を担う教員には教職生活全体を通じて学び続ける意欲と探求心を持って、専門性をより高めること」や「自らが位置するライフステージで求められる資質能力の向上に取り組むこと」等、研修の重要性が示されています。

7月に入り、当センターが主催する研修講座が、いよいよ本格的にスタートしました。まだ、定員に満たない講座もございます。各講座の3日前まで受け付けておりますので、ぜひお申し込みいただき、秋には自分磨きでワンランクアップした自分と出会ってみませんか。

(野田 幸範)

# 社会科副読本編集委員会より

## ○どうぞご活用ください○

社会科副読本編集委員会では、毎年新しい資料を加えたり、データを最新のものに更新したりしています。今年度も引き続き、それぞれの委員の取材をもとに、写真や数値等のデータの更新をしながら、最新の情報を掲載できるようにしたいと考えています。

もし、このホームページを一度もご覧になったことがない方がいらっしゃったら、ぜひ、ご覧ください。小学校 3・4 年生の学習で使えるワークシートや、他の学年や他の教科のさまざまな学習に活用できるページもありますので、ぜひ、社会科副読本『わたしたちの松阪市』を教材としてご活用いただきますようお願いします。

※「わたしたちの松阪市」ホームページアドレス (<http://fukudokuhon.jp/>)

～ 編集委員の紹介 ～ < 敬称略 >

委員長	西村 修久 (大河内小)	技術指導	島崎 良
顧問	松本 吉弘 (徳和小)	編集委員	高橋 淳 (第三小)
編集委員	杉山 達弘 (第四小)	編集委員	山川 高広 (幸小)
編集委員	道端 優也 (伊勢寺小)	編集委員	伊達 智博 (山室山小)
編集委員	立岡 一宏 (射和小)	編集委員	稲垣 智紀 (豊地小)
事務局	一木 剛 (子ども支援研究センター)	奥田 健司 (子ども支援研究センター)	

## 研修講座へのお申し込みありがとうございます！

本年度も研修講座にたくさんのお申し込みをいただきありがとうございます。現在、申し込み可能な講座について、当センターWeb ページに情報を掲載しております。申込書（別紙1）もダウンロードできます。講座3日前まで申し込み可能です。ぜひご活用ください。

### ☆研修講座の様子をご紹介します

A-1 国語「子どもが自分で読み、考え、伝える姿を確実に

字や言葉、文を理解し、使いこなす国語の力とともに」講師 木村 祐子 先生



第五小学校において、6年生の説明文について、公開授業だけでなく、単元を通してご指導いただきました。当日は師範授業と講義により、わかりやすくご指導いただきました。指示、発問、板書などの指導技術はもとより、授業者としての心構えや授業づくりで大切にしていきたいことなど、多くのことを学ばせていただきました。

B-18 乳幼児教育Ⅱ「子どもから学ぶしあわせの見つけ方」

講師 三浦 伸也 先生 (しんちゃん)

読み聞かせされている絵本の紹介や、具体的な子どもたちの様子をお話いただきました。「子どもたちは今を一生懸命生きている。いつの間にか私たちは大人になり、見えていたものが見えなくなっている。大人だからこそ、今に目を向け、今を生きる。その中にあるしあわせを、子どもたちから学ぼう」とのメッセージをいただきました。

